みなさまと(財)白浜医療福 祉 財 寸 を結ぶ情報 誌



療養病棟のクリスマスツリー



新本館建設現場

完成に向けて工事が進んで います。

2012年秋の供用開始予定 です。



白浜はまゆう病院は、夜間・休日を問わず 「365日・24時間の救急医療」に対応しています。







理念·基本方針 2
院長挨拶 2~3
台風12号被災地への災害支援活動… 4~5
施設会開催6
白浜町議会・白浜町との懇談会 6
地域医療研修を体験して(寄稿) 7
マナーリーダー会の取り組み 8
病院機能評価Ver6.0認定 8
ふれあい看護体験 9
療養病棟の秋祭り10
患者さまからの声10
笠田光美士のおナナはここ 44

Vol.

●白浜はまゆう病院 外来診療担当表

(財)日本医療機能評価機構 認定施設複合病院(一般·療養)Ver.6.0

理 念

私たちは、地域に根ざした医療機関として、誠実さと思いやりをもって、質の高いサービスを提供し、健康・福祉のレベルの高い地域づくりに努めます。

基本方針

1. 利用者の権利の尊重

私たちは、健康増進から看取りまで、利用 者の皆様の気持ちや権利を大切にした医療とケアを提供します。

2. 地域に開かれた存在

私たちは、24時間いつでも、誰でも、困った 時は気軽に受診・相談していただける、地 域に開かれた医療機関・サービス提供機 関を目指します。

あんしん。

3.協力と連携

私たちは、院内各職種が手を携え、地域の 他機関とも協力連携し、健康増進・診断と 治療・リハビリテーション・看取りまでの一 貫した包括的な地域医療と福祉を提供し ます。

4. 利用者とのパートナーシップ

私たちは、患者・利用者の皆様と手を携え、 安全で質の高い医療・ケアを提供します。

5. 事故・災害への対応

私たちは、大規模な自然災害や事故に対応できるように、普段から備えを強め、いざと言うときに頼りになる病院を目指します。

6.質の維持と改善

私たちは、常に研修を行い、時代の水準を維持するとともに、お互いに注意し合い、 サービスの質の向上に努めます。

7. 観光地の病院としての対応

私たちは、観光客の人々が安心して訪れられるよう、不慮の事故や病気に対しての診療体制を整備します。

院長あいさつ

白浜はまゆう病院 院長 谷口 友志



まず、この度の台風12号によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。新本館建設工事では皆様に大変ご迷惑ご不便をおかけしております。

今回は昔話をひとつ。

私がまだ30歳の若造で高野山病院に外科医 として勤務していた頃の話です。1年後には出

身大学に戻り消化器内科をやることとなりましたが内科研修の経験はありませんでした。当時、 高野山病院には和歌山医大の学長を退官された宮野先生に内科の診療に来ていただいており、 そこで、先生にお願いしてBeschreiber(口頭で言われる診察所見を筆記する)をしつつ内科診察を 勉強させていただいておりました。あるとき先生がさりげなく診察机の上に置かれていたのは 「扶氏医戒之略」。ベルリン大学教授C.W.フーフェラントの著書「医戒」を緒方洪庵が抄訳し12 か条にまとめ、医師の戒めとして門人に説いたものです。こっそりコピーをして繰り返し読みました。そして紀伊国屋でその文庫本を探し出し購入しました。字数が多くここに全文は掲載できませんが、現在にも十分通用する、いやむしろ今この現在こそ医師が再認識すべき「医療の原点」、「医師の在り方」を的確に指摘していると思います。

第1条はこうです。「医の世に生活するは人の為のみ、おのれがためにあらずということを其業の本旨とす。安逸を思はず、名利を顧みず、唯おのれをすてて人を救はんことを希ふべし。」まさに母校にあった石碑の「忘己利他」であり、臨床医の原点でしょう。第2条は「病者に対しては唯病者を見るべし。貴賤貧富を顧ることなかれ。長者一握の黄金を以て貧士双眼の感涙に比するに、其心に得るところ如何ぞや。深く之を思ふべし」。他にも、「学術を研精するの外、尚言行に意を用いて病者に信任せられんことを求むべし」、「毎日夜間に方て更に昼間の病按を再考し、詳に筆記するを課定とすべし」、「自尊大にして屡々診察することを欲せざるは甚だ悪むべきなり」。医師各々が日常診療において常に肝に銘ずべき事柄です。第9条は、「世間に対して衆人の好意を得んことを要すべし。(中略)。殊に医は人の身命を依托し、赤裸を露呈し、最密の禁秘をも白し、最辱の懺悔をも状せざること能はざる所なり。常に篤実温厚を旨として、多言ならず、沈黙ならんことを主とすべし。博徒、酒客、好色、貪利の名なからんことは素より論を俟ず」。日々省みるべきでしょう。

第10条「同業の人に対しては之を敬し、之を愛すべし。 (中略)。決して他医を議することなかれ。(中略)。老医は 敬重すべし。少輩は親愛すべし。(以下略)」。

過日、改めて繙いてみて感じるままに書きましたが、私ど ものように地域に密着した医療を目指しているものにとっ ては特に心得ておくべき事であると再認識した次第です。

忘己利他

自治医科大学 石碑

昨今の医学の進歩は目覚しいものがありますが、医学の最先端ばかりを追っているとどうしても木を見て山を見なくなりがちです。しかしながら医学が進歩し医療が荒んでは本末転倒です。最近、「臨床哲学」なる学問があることを知りました。医学部ではなく主に文学部に講座があるようですが、現実社会の具体的場面で生じているさまざまな問題を「治療」という観点から、しかも「医者」ではなく、むしろ「患者」の立場に立って考えていこうとするもののようです。具体的には、遺伝子操作、介護と看護、生殖技術、環境倫理、などなど多岐にわたる問題を、あくまでも具体的な「個別事例」から出発することによって既成の原理を揺さぶり、新たな観念や思考のスタイルを紡ぎ出すことを目指す学問です。今迄、医学部が内部ではできなかった、研究や医療のあり方に対するチェックをやっていこうということかと愚考しておりますが、いずれにしてもこういう学問が出てきたことはありがたい話です。皆様方におかれましても何かお気づきのことがございましたら御指摘いただき、今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

台風12号被災地への災害支援活動

台風12号の被害は大きく、被災された地域の皆様にはお見舞いを申しあげます。

白浜はまゆう病院からも、和歌山県看護協会からの協力要請を受け、9月14日~17日、9月29日~10月2日までの計8日間、被災地への支援活動を行っている那智勝浦町立温泉病院に看護師の派遣を行いました。今回、現地で活動を行ってきた看護師の活動報告を紹介させていただきます。

手術室 看護師 大仲 高廣

派遣期間は9月14日から17日までの4日間で、まず初日の午前は病院内のオリエンテーションを受け、 夕方からは被災状況を視察し、井関保育所・市野々小学校・那智川周辺を巡回しました。

保育所・小学校ともに那智川のすぐそばにあり、一階部分まで浸水し視察時にはまだ土砂が覆い尽くし

ている状況でした。那智川周辺は道端に土石があり、道路が崩落している箇所もありました。那智川も元々の川幅がわからないほどに決壊していました。

2日目・3日目の午前は院内業務を担当し、午後からは井関保育所 に開設された救護所および避難所の巡回に同行しました。

避難所の巡回へは医師2名・看護師2名・事務員1名で行なわれ、 巡回用のバッグを持参するのですが、内容は聴診器・血糖測定器・内



被災した井関保育所

服薬・外用薬・創傷保護用材料など簡単な処置・処方ができるセットとなっています。まずグリーンピア南



那智川周辺の様子

紀では、町役場の担当者が事前に避難者の方々に通達されていたので、巡回スタッフが到着後、受診希望者は受付を済ませた後、診察室に来てもらい診察が行なわれていました。

その他の避難所では、体育館などが避難所となっているため避難されている方々の所へ往診という形で声を掛け、受診希望者がいれば住所・氏名を聞き、そこからカルテの作成・検索をし、診察が始まります。その後、処方や処置が終わりカルテ記入という流れでしたが、今回巡回した勝浦小学校で約10世帯・健康福祉センターで約20世帯、那智中学校では

100人超の避難者の方がおられ、受診者が少ない場合にはカルテを処理することも可能ですが、100人超ともなると二手に分かれそれぞれ診察を行なっても、診察希望者を別のグループが二重に診察していたり、事務員が1名ということもありカルテの検索や記録が追いつかないなど混乱した状況となっていました。巡回用バッグについても1グループに1つしかなく、処方や処置のたびにバッグを往復しており、避難所が広く受診者が多い場合にはかなりの時間と体力の浪費だったように感じました。

4ヶ所の巡回でしたが5時間近くかかり、巡回スタッフは通常業務を終えてからの巡回だったので負担も大きかったと思われます。また、その日によって新たに避難所が開設されたり、避難者が増加したりと刻々と変化する状況のなかで連絡体制・診療体制を確立することが非常に難しいとの現場の声も聞かれました。

この4日間を振り返り感じたことは、拠点となった温泉病院が通常業務を行なえる状況だったので、待機していることが多かったのですが、日勤帯の救護所担当では病棟や外来スタッフから1名欠員となり、その分業務に負担が出るでしょうし、夜間は日勤業務終了後から巡回があるので疲労も重なってくると思います。限られた期間での派遣で入れ替わりもあり難しいとは思いますが派遣された人員をそれらに回せると、

もっと受け入れ病院のスタッフのストレス・疲労の軽減を図れたのではないかと思いました。また今回のよう な予測できない災害が起こったとき、病院スタッフ自身も被災している状況のなか、限られた人員でどれだ けの体制を作り、維持できるかが非常に重要ではないかということを実感いたしました。

外来看護師長 湯川 玉美



現地対策本部

台風12号の影響で被災した那智勝浦町立温泉病院に9月29 日から10月2日まで災害派遣として、活動を行ってきました。

初日は、被災現場を案内していただき現地の状況を見せて いただきました。その後、病院にもどって、オリエンテーションを受 けて病棟に応援に入りました。

オリエンテーションでは、病院のスタッフにも被災した方たちが いること、またその方たちは自分の家の片付けもしながら避難所 から勤務を続けていることを聞きました。そんなことから、病棟の応 援をして欲しいとのことでした。夕方からは、避難所の巡回診察に

も同行しました。

被災から、4週間の時間がたっていることで町内を循環する無料バスなど交通手段も整ってきて、落ち着 いてきているので、避難所からかかりつけ医に受診も可能になってきたことから、避難所の巡回診 察、現場に設けられていた救護所も、30日で撤収するとのことで、徐々に日常が戻りつつあるのかと感じま した。しかし、避難所の巡回時に保健師から、日中は元気な方や若い方は仕事に出ていたり、自宅の片付け に行かれたりされているが高齢者は、避難所の部屋にこもりがちになってきているとのことでした。グリーンピ ア南紀のホテル部分が避難所になっているため、テレビでみるような体育館のダンボールで仕切っている ようなものではなく、各家族ごとに個室がありました。しかし自炊する設備がないため、食事が配られるおに ぎりやお弁当だけに限られており、高齢者の方には辛い食事であることなど、まだまだ日常に程遠い現実も あることを知りました。

被災から、4週間経過している事から現場は随分と片付いていましたが、大きく変わってしまった日常へ の心配や将来への不安などの声も、スタッフの方達からも出ていました。

今回、この災害派遣に参加させてもらった経験は、貴重な経験でしたがこのことはマニュアル作成などに いかす事があっても実際に役立つようなことが無いように願っています。

地域の安心確保のために

(白浜町と災害時等における協定書締結)

2011年9月9日に白浜町と白浜はまゆう病院他、町内7介護事業者が協定を締結しました。

目的は、台風、集中豪雨等による災害のおそれがある場合、また発生してしまった場合に、白浜町からの 要請に応じ、一般の避難所では生活が難しい高齢者、障害者等を施設で受け入れ地域住民の安心を確 保することです。

また、要請に応じ避難所に職員の派遣も行います。

医療機関ですので、ケガ、病気をされた方が優先となりますが、普段からそなえを強め、いざと言うときに 地域の方々から頼りにされる病院を目指していきます。

2011年度"施設会"開催!

~協力病院契約施設職員との意見交換を大切に~

白浜はまゆう病院では、2006年から毎年1回"施設会"を開催し、協力病院契約施設の職員の皆様と当 院の看護師等が協力と連携を深めるため意見交換を実施しています。

今年は11月22日(火)、当院本館2階会議室において、白浜町内をはじめ田辺・西牟婁圏域の施設職員に参加いただき、当院看護師長及び地域ケア室スタッフと意見を交換しました。

「地域ケア室には、お集まりの皆様方からのご意見をしっかり受け止め、病院全体の業務を見直していくという役割もあります。忌憚ないご意見を賜りたい。」と國部久也婦人科部長・地域ケア室長が開会の挨拶。 梅本恭子副看護部長・地域ケア室副室長が司会進行し皆様からのご意見を求めました。

「入院時と退院時で利用者のADLなど状態が変化している場合は、準備の都合もあるので事前に余裕を持って十分な情報提供が欲しい。」「忙しい時間帯もあるようだが、高齢者の目線に合わせた親切な案内

をしてほしい。」など利用者の立場に立った多くの 貴重な意見が寄せられました。

「新本館建設に伴う介護療養病床の削減も予定されるなか、施設関係者の皆様とは今後もよりよい関係づくりに努めたい。」と西浦敏和事務長が話した後、「今日いただいたご意見を大切にして、改善すべき点については改善をすすめます。」と東直子副院長・看護部長が挨拶し閉会しました。

来年も施設会を開催します!



施設会の様子

白浜町議会・白浜町との懇談会

2011年8月31日(水)午後5時より、白浜町議会・白浜町役場・財団関係者34名が出席し懇談会が開催されました。

本財団より、2010年度の経営状況及び2011年度事業計画の概要、白 浜はまゆう病院新本館建設工事の進捗状況について説明を行い、新本館 建設工事の費用やリハビリテーションを充実させる理由、公益法人制度改 革等について活発な意見交換が行われました。



最後に、松尾晃次副理事長より、和歌山県医療救護班として東日本大震災の医療支援活動にあたられたことから、大規模な震災では医療だけではなく介護の体制も破壊されており、その再建も復興のために大きな課題であるということを説明され会は終了しました。

お忙しい中ご出席いただきました白浜町議会議員・白浜町役場職員の方々、ご指導ありがとうございました。

cccccccccc

地域医療研修を体験して

日赤和歌山医療センター 研修医 江川 悟史医師

臨床研修の一環で地域医療研修を白浜はまゆう病院で行わせていただきました。主に、訪問診療・看護・リハビリを見学させていただきました。今回の研修では、普段の急性期の研修では得られない経験をすることができました。

まず驚いたのは病院と各診療所間の連携シス テムが非常に効率的であることです。電子カルテ はもちろんなのですが、どの診療所からもタイム



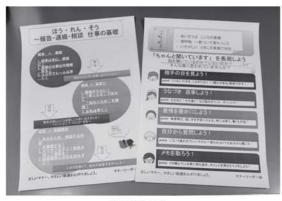
リーに使用・閲覧できます。このシステムにて、病院での検査結果等をどの診療所からでも閲覧できます。 診療情報が十分に共有されることで、無駄な検査が無くなり、非常に効率的に診療が行われていました。 そして何より患者さんにも大きな安心感を得ていただくことにもつながっております。また診療の効率が上がることで、医療従事者側にも余裕ができ、より丁寧な診療が行うことが可能であると感じました。

また和歌山県では高齢化や過疎化が進んでおります。山奥で一人暮らしをせざるを得ない方々も多くいらっしゃいました。白浜はまゆう病院では、このような方々にも積極的に訪問診療・介護・リハビリを行っております。バリアフリーとは程遠い環境の中で生活をされている患者さんもいました。このような方々の生活をご家族とともに支えていくことの大切さを学ぶことができました。

今回の研修では、都会の診療所の様な忙しさはありませんでしたが、一人一人の患者さんと人として向き合うことができました。患者さんの一言一言に耳を傾けることが可能であり、時には家族の様に親身にもなれます。これこそが医療の原点であると感じました。

2週間と短い間でしたが、今回の経験を今後の診療にも活かして行きたいと思います。お世話になった先生方、病院関係者の皆様、そして患者さんとそのご家族の皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りして、深く御礼を申し上げます。

マナーリーダー会の取り組み



標語ポスター

マナーリーダー会は、患者様へのサービス向上及び 広報推進を図ることを目的とした患者サービス広報委 員会の活動の中で、院内のマナー向上のため設置しました。病院利用者及び職員間の接偶の検討・協議を行うことにより、院内のマナー向上を目指すことを目的として、各部署からマナーリーダー8名で構成され、2ヶ月毎 に開催しています。

「親切で思いやりあふれた態度を身につけよう~気 持ちの良い対応とスムーズな連携を行い、風通しの良い

職場環境を作るために~」を今年の目標としています。

やさしさや思いやりは業務に当たるためには大前提のことです。それをどう表現して行くべきかを自ら考え行動するために、マナーリーダー会では、マナー向上のためのポスターを作成し、各部署に貼付するなどの活動をしています。

また、昨年度の和歌山県病院協会学術大会では、患者様からのご意見を元にマナーリーダー会が製作した接偶ビデオについてポスターセッションによる発表を行い、好評を得ました。

今後も患者様だけでなく、職員同士や仕事上接する方に対する職員マナー・接偶の向上を目指し、活動を続けて行きたいと思っています。

病院機能評価Ver.6.0の認定更新と求められる進化

病院機能評価本部会議 事務局 尾野 啓介

2011年4月、病院機能評価Ver. 6. 0の認定更新の審査 を受審し、認定をいただきました。当院としては3度目の更 新になります。病院機能評価も回を増すごとに進化してお り、求められる質の高さも進化しています。評価項目の中に は環境への配慮を求めるところもあり、時代のニーズに病院 がどのように対応しているかを評価されていました。

時代のニーズに応えるためには病院も進化する必要が あります。当院としては地域の皆様のニーズに応えるため



に、日々考え、実行していかなければなりません。今回の認定により一息つきたいところではありますが、状態の維持を心がけるのではなく、進化し続けていきたいと思います。

「ふれあい看護体験」

今年は、始めて男子学生を含む高校生4名の参加 者で8月4日(木)に「ふれあい看護体験」を行いました。

参加者は、イメージしている看護師の仕事を実際 に体験したり、見る事で目標としている看護師への進 路が明確になったようです。最後には、活発な意見交 換を行ない終了することができました。

看護師不足の状況の中で「ふれあい看護体験」 が、看護師への第1歩に繋がるように来年も企画して いきたいと思います。



車イスの介助体験

ふれあい看護体験に参加して

神島高等学校3年

ふれあい看護体験に参加して看護体験をしたのは、これで3回目です。白衣を着るのは2回目でした。思った事は看護師という仕事は楽なものではなく、大変だと思いました。一人一人の健康や性格を判断して仕事をしたり、カルテを作ったりと大忙しだと思いました。でも、患者さんの笑顔やお礼の言葉を言ってくださった時は、すごく嬉しいと感じました。

食事の介助をしてみて、患者さんのことを考えながら介助しました。自分で歩けない人、寝たきりの人、言葉を喋れない人、人工呼吸器を付けていないと呼吸が出来ない人、自分の足で歩いて、しっかりと話せる人など沢山の人達がいました。話せなくても表情でその人を読み取れたり出来るなと思いました。色んな人達がいて、色んなケアの仕方や接し方があってそれらを学べました。(中略)

短い間で、出来ない体験もありましたが楽しさややりがい、苦労などを知れて、今日、はまゆう病院の看護体験に参加できて良かったです。 きっとこの体験は専門学校に行ったときや実際に働き出したときに役に立つ体験だと思います。

地元にある身近な病院の体験ができ、いつも 外来ばかりしか行かなかったので、病棟がどん



な風になっていて、こういう雰囲気なんだなと言うのが分かって来ました。体験に来て良かったです。

療養病棟の秋祭り

今年は、初めての野外での秋祭り を10月2日(日)に開催しました。

期待と不安が入り混じる中で の野外開催ではありましたが、 いざ蓋を開けてみると、やや寒 空の中での開催にも関わらず、会 場の熱気はそれを感じさせないほ どの盛り上がりとなり、予想以上の盛況



新館4階病棟 看護補助者 村上 裕司

ぶりに驚くばかりでした。

今回より、診療所の川添茶、放射線科のわらびもちが新たに加わり、昨年から参加の総務課のコーヒー、 リハビリのコンサートに加え、各病棟の趣向を凝らした出し物がより秋祭りを盛り上げてくれました。また、多 忙な中で参加してくださった御家族、秋祭りを楽しみにされていた多くの患者様の参加もあり、ここまで盛り 上げることができたのだと嬉しく思います。

参加してくださった御家族や患者様からの「外の方が祭りの雰囲気あってええな。」「来年も外でしてよ。 今から楽しみにしとくわ。」など、色々な感想を頂戴しました。このような励ましの声や感謝の言葉を頂くたび、 大変やりがいを感じます。

大盛況の中、無事に秋祭りを終了することができましたが、そこはやはり初の試み。多くの反省点もありま した。来年の秋祭りでは、今回での反省点を踏まえ、より多くの御家族、患者様に楽しんでいただけるように 取り組んでいきたいと思います。

天候こそ曇り空ではありましたが職員一同、大





患者さま からの

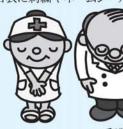


() 名札を付けない看護師が多いのはなぜですか?

△ 病院職員は、カード形式の名札を着用しています。カード 形式の名札は、角があり材質がやや固いので、患者様の オムツ交換や入浴・移動といったケア時に危険が伴うことがござ

います。そのため、看護師は安全な看護・ケアを提供できるよう に、カード形式の名札ではなく、白衣に刺繍やネームシールをつ

け氏名を表示しています。刺繍 やネームシールは、カード形式の 名札に比べ目立ちにくいという 難点があります。また、看護師の 入職直後には、ネームシールの 取り付けが間に合わないこともあ りますので、見やすい取り付け方 法と併せて工夫を致します。



看護部長

おすがる 力ラクにおいい とうておきしシーと 第11回

~ふわふわ鶏団子みぞれ鍋~

師走の声に心あわただしいこの頃、いつのまにか吐く息も白くなり、温かいお鍋が恋 しい季節となりました。

用意も簡単で、余ったお野菜なども使えて経済的、各御家庭でも定番やオリジナルの お鍋レシピがある事かと思います。

お酒を飲む機会も多くなる12月、温まってお腹にもやさしいお鍋を紹介いたします。



食養科·管理栄養士 副主任 玉置 公子

ふわふわ鶏団子みぞれ鍋

材料<4人分> 大根・・・・・900g(約1本) 餅・・・・・200g(約5切) 豆腐・・・・400g 生椎茸・・・・80g(約8枚) 白ねぎ・・・・300g(約2本) みつば・・・・50g

小ねぎ………(薬味用) <鶏団子>

鶏ミンチ・・・・・・ 400g 長いも・・・・・・ 50g 生姜おろし・・・・ 10g 卵・・・・・・ 1個 薄口しょうゆ・・・・ 小さじ1 片栗粉・・・・・・ 大さじ1 塩・・・・・・・ 小さじ1/3 <調味料>

こんぶだし…… 200ml

食塩………小さじ2 薄口しょうゆ……小さじ2

> 栄養価(1人分) エネルギー……484kcal タンパク質……32.6g 脂質………13.5g 糖質………50.9g



作り方

- ①豆腐は1丁を6~8等分に切る
- ②大根は皮をむき大根おろしにし、ザルに上げて軽く汁気を絞っておろしとおろし汁に分ける
- ③三つ葉は3~4cmの長さに切る
- ④生椎茸は石づきを切り落とし、笠は十字の切込みを入れて飾り切りにする
- ⑤白ねぎは3cmの長さに切り、網で焼く
- ⑥お餅は半分に切り、網で焼く(好みによりゴマ油で焼くと香ばしくなり、おいしいです)
- ⑦鶏団子を作る

鶏ミンチに、すった長いも・溶いた卵・片栗粉・醤油・塩を入れ手で捏ね鶏団子を作る

- ⑧鍋にこんぶだし・大根おろし汁と<調味料>を合わせた出しを入れ、火にかける
- ⑨煮立てば、鶏団子をスプーンで落とす
- ⑩焼きもち、豆腐、椎茸、焼き白ねぎを加える
- ⑪具に火が入れば大根おろしを適量加え、煮立てば三つ葉を加える
- ⑫各自、小鉢に取り<薬味:小ねぎ>を加えて頂きます(好みに七味唐辛子・ポン酢をかけても美味しく頂けます)

当浜はまゆう病院診療担当表 電話 43-7880 (受付) 43-6200 (代表)

		25 25 25			STAN MERCHANIS			11 1-11
	診 療 科		月	火	水	木	金	土
内科	内科1(初診)	午前	山崎	佐藤	伊藤揚	榎本	高井	高村
		午後	伊藤揚	木下	松本	辻	赤松	
	内科2(再診)	午前	木下	伊藤浩	松尾	松尾	山﨑	
		午後	松本	伊藤浩		松本	山﨑	
	内科3(再診)	午前			赤松	佐藤		
		午後			佐藤	榎本		
	内科4(再診)	午前		齊藤	中川		伊藤浩	
		午後			立田		伊藤浩	
	内科5(再診)	午前		伊藤揚	谷口	伊藤揚	谷口	
		午後	辻	井神	谷口		木下	
外科		午前	当番医	曽我	西村	曽我	西村	当番医
脳神経外科		午前				中北		
整形外科	整形1(初診)	午前	飯田	金本	飯田	金本	岩切	
		午後	ギプス装具外来					
	整形2(再診)	午前	金本	リウマチ外来			飯田	
	小児科	午前	古久保	古久保	古久保	古久保	古久保	古久保
	317644	午後	古久保	古久保		古久保	古久保	
産婦人科		午前	國部	國部	國部			
		午後	國部	國部	國部	國部	國部	
皮膚科		午前						県立医大·京都大学
		午後		県立医大・京都大学				
	眼科	午後			芦田			
	耳鼻咽喉科	午後				県立医大		
	循環器外来	午前		伊藤浩			伊藤浩	
	VII AR DO J I A	午後		伊藤浩			伊藤浩	
呼吸器外来		午前			松尾	松尾/榎本		
		午後				榎本	<u>.</u>	
アレルギー・呼吸器専門外来		午前			中川		į.	
	腎臓内科	午前		齊藤				
	泌尿器科外来	午前	柏木	柏木	柏木	柏木	柏木	当番医
	神経内科・	午前	小口	廣西	石口		小口	
リハビリテーション専門外来		午後	廣西	石口		小口/森田		
緩和ケア外来(予約制)		午後			伊藤浩			
心療内科 漢方外来		午後			立田			
膠原病·糖尿病専門外来		午前		伊藤揚		伊藤揚		
	糖尿病専門外来	午後		井神				
	消化器専門外来	午前	山﨑		谷口		山﨑/谷口	
円1000号1177本		午後			谷口		山﨑	
循環器·高血圧専門外来		午前						有田(月2回)
関節専門外来		午前		1				休診
-Ante	出业匠が亦面にたステレが:		フスノゼナい					山22 12 1班7

※診療担当医が変更になることがあります。ご了承ください。

受付時間 診療時間 午前(月~土) 8:30~11:30 9:00~12:00 午後(月~金) 13:30~16:30 14:00~17:00 皮膚科(火) 13:00~15:45 13:30~16:00 糖尿病外来(火) 14:00~16:00 14:00~16:00 12:00~14:30 眼科(水) 耳鼻咽喉科(木) 14:00~16:30 14:30~17:00 循環器・高血圧専門外来(土) 8:30~11:00 9:00~12:00 神経内科・リハビリテ ーション 13:00~16:00 13:00~16:00

●休診 土曜日午後·日·祝

※診療時間外(夜間・休日)に 具合が悪くなったときは、 日時に関係なく受付します ので、白浜はまゆう病院へ 電話でご連絡ください。



白浜医療福祉財団

白浜はまゆう病院 ●理事長 水本 雄三 ●院 長 谷口 友志 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1447番地

TEL.0739(43)6200 FAX.0739(43)7891 [E-mail]hamayu@mb.aikis.or.jp [URL] http://www.hamayu-hp.or.jp/

2 西西 \blacksquare 2 點點 Ш 診 療 所 置 診 療 所 = 舞 診 療 所 JII 添 診 療 所 ■訪問看護ステーションたんぽぽ

専門外来(森田)

〒649-2334 和歌山県西牟婁郡白浜町才野1番地 〒646-1101 和歌山県田辺市鮎川583番地の3

〒649-2511 和歌山県西牟婁郡白浜町日置206番地の1 〒649-2532 和歌山県西牟婁郡白浜町安居3番地

〒646-0301 和歌山県西牟婁郡白浜町市鹿野1103 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1447番地 歸西野 日本

TEL.0739(45)3600 FAX.0739(45)3678 TEL.0739(48)0031 FAX.0739(48)1005 TEL.0739(52)2002 FAX.0739(52)4192 TEL.0739(53)0001 FAX.0739(53)0001 TEL.0739(54)0037 FAX.0739(54)0037 TEL.0739(43)5226 FAX.0739(43)0682